平成22年度入学者選抜学力検査問題

国　　語

注　　意

1　監督者の「始め」の合図があるまでは，開いてはいけません。

2　検査時間は，9時25分から10時15分までの50分間です。

3　大きな問題は全部で5問で，表紙を除いて7ページです。
　また，別に解答用紙が，(1)，(2)の2枚あります。

4　監督者の「始め」の合図があったら，すぐに受検番号をこの表紙と解答用紙(1)，(2)のきめられた欄に書きなさい。

5　答えは，必ず解答用紙のきめられた欄に書きなさい。
　また，特に指示のあるもののほかは，各問いのア，イ，ウ，エのうちから最も適当なものをそれぞれ一つ選んで，その記号を解答欄の(　　)の中に書き入れなさい。

6　答えの字数が指示されている問いについては，句読点や「　」などの符号も字数に数えるものとします。

7　監督者の「やめ」の合図があったら，すぐやめて，筆記用具をおきなさい。

受検番号	番

1

次の1から7までの問いに答えなさい。

1 次の――線の部分の読みをひらがなで書きなさい。

(1) 視線を交わす。　(2) 町の発展に尽力する。

(3) 緩やかな上り坂だ。　(4) 研究を委嘱する。

(5) 水草が繁茂する。

2 次の――線の部分を漢字で書きなさい。

(1) 荷物をアズける。　(2) 道路ヒョウシキを設置する。

(3) 目上の人をウヤマう。　(4) 駅前広場をカクチョウする。

(5) 飛行機をソウジュウする。

3 「学校祭の準備で、今週はとても忙しい。」の――線の部分と、文法的に同じ意味・用法のものはどれか。

ア 生徒が帰った後の教室はとても静かで、物音一つしない。

イ ここ二、三日の暖かさで、桜のつぼみがふくらんできた。

ウ 僕の弟は小学生で、野球チームのキャプテンをしている。

エ 朝食後に新聞を読んで、散歩に出かけるのが父の日課だ。

4 「彼は、孫のしぐさに目を細めた。」の――線の部分の意味として適切なものはどれか。

ア 満足し何度もうなずいた。　イ うれしそうにほほえんだ。

ウ 心配そうに暗い顔をした。　エ 喜びがこみ上げ涙ぐんだ。

5 次の――線の「いらっしゃる」のうち、文中で表している意味が他の三つと異なるものはどれか。

ア 私のピアノの演奏を、学校の先生が聴きにいらっしゃる。

イ 留学中にお世話になった方が、私に会いにいらっしゃる。

ウ 明日、本校に県外から有名な作家が講演にいらっしゃる。

エ 奉仕作業で、地域の方々が正午まで学校にいらっしゃる。

6 「返答」と熟語の構成が同じものはどれか。

ア 県営　イ 最後　ウ 待機　エ 永久

7 次の和歌の、意味上の切れ目は何句目の後か。漢数字で答えなさい。

わたの原八十島かけて漕ぎいでぬと人には告げよ海人の釣舟

（「古今和歌集」小野篁）

（注）わたの原＝大海原

2

次の文章を読んで、1から5までの問いに答えなさい。

(1)或人の、物事にふかく念を入れ、(注1)得失の吟味つよかりしが、市中の住居なれば、(注2)蔵造るに、(注3)蔵の口は多く家の内の方にあくるに、此人、(2)地の費をいとはず、家と蔵との間、道をあけて造りしに、家をはなれたる蔵いかめしく、火の届くべきとも見えざりしが、間ぢかき家より火出て焼るに、(注4)蔵の戸したためんとするに、家と蔵との間へ炎風きびしく吹かけければ、戸の口塗る事叶はで逃出たれば、家蔵のこらず焼け失せぬ。「蔵の口を並々の町屋の如く家の内にせしならば、戸さす程の間は有りぬべきを。」と、後に人のいひけり。［　　］火の出やう、風のおもむきによりて、家の内に蔵の口あらんよりははなれたるはよからめ。(注5)此火にては念の入りたるが害に成たり。是非いかんとも定がたし。ほろぶる時にこそありけめ。これらは人の心をつくべき事也。

（「労四狂」から）

（注1）得失の吟味＝利害について注意深く検討すること
（注2）蔵＝大事なものを保管しておく建物
（注3）蔵の口は多く家の内の方にあくるに＝（住居とは別に外蔵を建てるのではなく）蔵の入り口が住居の中にある内蔵にすることが多いのに
（注4）蔵の戸したためん＝（火から蔵を守るために）蔵の扉を壁土で塗り固めよう
（注5）よからめ＝よいだろう

1 叶はで は現代ではどう読むか。現代かなづかいを用いて、すべてひらがなで書きなさい。

2 ［　　］に入る語として適切なものはどれか。
ア よつて　イ しからば　ウ かつ　エ されども

3 (1)或人の、物事にふかく念を入れ とあるが、或人が蔵を造るときに念を入れたのは、どのようなことか。三十五字以内の現代語で具体的に書きなさい。

4 (2)地の費をいとはず とは、どういう意味か。
ア 土地を買う方法を慎重に検討することもせず
イ 土地を余計に使ってしまうのを嫌がりもせず
ウ 土地を整備して道にする労力を惜しみもせず
エ 土地を荒廃させてしまう危険性を顧みもせず

5 本文からうかがえる筆者の考えとして、最も適切なものはどれか。
ア 用心して対策をとったために大きな損害を被ることもあるので、先のことを予想するのは難しいと心得ておくべきである。
イ 世間で通常行われていることは道理にかなったことが多いので、一般的なやり方に従う方がよいと心得ておくべきである。
ウ 様々な工夫を凝らしても結局は損をすることが多いので、無駄なことはなるべくしない方がよいと心得ておくべきである。
エ 物事は状況によって様々に変わるので、それらを考慮したうえで対処法を決めなければならないと心得ておくべきである。

3

次の文章を読んで、1から6までの問いに答えなさい。

私たちの住まいに対する不満の一つは、広さの不足にあるが、それは使い方と密接な関係を持つ。沓脱ぎの習慣を持つことがその一例だ。家の中で靴を履かないで生活しているのは、先進国といわれる中では、朝鮮半島に住む人たちと日本人である。(1)

日本は長い歴史の中であらゆることを中国から学んだが、靴を履いて生活することだけは習わなかった。気候風土が違うためだが、これは賢明な選択であった。(2)

戦後になって住宅は急速に洋風に変わったが、沓脱ぎは相変わらず守られている。日本の洋間は写真に写すとヨーロッパの部屋と同じに見えるが、根本的に違うのは床の上に寝転べるということである。だからウサギ小屋と悪口をいわれながらも、その狭さの中で暮らしてこられたのである。

ヨーロッパの人たちが裸足で下着姿になれるのはベッドの上だけだが、日本では家じゅうをステテコ姿で歩ける。そういう見方をしてくると、日本の家というのは大きなベッドの周りに、壁と屋根をつけたものということもできそうである。だから床の上に布団を敷いて寝るという生活スタイルは彼らには想像しにくい。

私たちの住まいは、植物も動物も人間も、もとは同じ根から出た自然の中の仮の姿で、この世を「終のすみか」とする人生観のうえに立って作られてきた。そこで自然の中に溶け込んで、細い木の柱を立て、障子をはめて縁側をまわす、という形が基本になってきたのである。障子をあければ自然があって、戸外の緑と室内はひとりでにつながっている。(3)

庭は借景でことが足りるし、虫も鳥も家の中に入ってくるのを拒まない。山も森も、さらには月でさえも、全体は一つのものだという哲学が基盤になっているわけである。

一方、ヨーロッパでは、人間は自然と対立するもので、自然を克服するところに、芸術も文化も生まれると考えた。

だから住まいは石やレンガで囲まれているし、重い扉は空気さえも遮断している。インテリアとエクステリア(注1)は［　　］区切られていて、都市はそのまわりをがんじょうな城壁で囲まなければならなかったのである。

日本のインテリアの特徴は、柱、障子、畳、天井に生物材料を使い、それを白木のテクスチュア(注2)で統一しているところにある。

人間はもともと生物だから、体に接するところに生物材料を置くのが一番素直だし、心も休まる。生物材料で囲まれたインテリアは、自然と人工とが組み合わされた空間だから、日本人にとってヒノキやスギの白木の肌は、戸外の緑と同じ意味あいを持っていたのである。

以上のように考えてくると、ヨーロッパの「石の文化」「金の文化」に対して、日本の「木の文化」が生まれた理由を納得することができる。だからこそ建物の材料に木のような生物材料が選ばれたに違いない。(4)

そして同じ木の使い方でも彼らはその肌を厚い塗料で覆ったのに、日本人は白木の素肌に心の安らぎを覚えたのであった。

畳に布団の生活スタイルは、そうした長い伝統の中から定着してきたのである。

（小原二郎「木の文化をさぐる」から）

（注1）エクステリア＝建物の壁面や塀、門扉、垣、植木などのこと。

（注2）テクスチュア＝素材・材質。

1 (1)その一例 の説明として最も適切なものはどれか。

ア 住まいが時代と共に変化を遂げてきたことに伴って、常に姿を変え続けてきたマナーや習慣の一例。

イ 住まいの狭さという問題に対して、長い歴史の中で日本人が工夫を重ねて身につけた使い方の一例。

ウ 住まいが持つ問題点の中でも、特に面積の点で多くの日本人が不満を感じているということの一例。

エ 住まいの広さの点で不満を感じていることと、住まいの使い方に深い関係があるということの一例。

2 (2)これは賢明な選択であった とあるが、筆者がそう考えるのはなぜか。四十字以内で書きなさい。

3 (3)植物も動物も人間も、もとは同じ根から出た自然の中の仮の姿で、この世を「終のすみか」とする人生観 とあるが、ここに見られる考え方として最も適切なものはどれか。

ア この世に生きている間の姿は違っても、寿命を迎えた後には自然へ戻る宿命を持つという点は変わらないという考え方。

イ この世に生きている間の姿は違っても、はるか昔の生命誕生の起源まで遡ってみたときの姿は変わらないという考え方。

ウ この世に生きている間の姿は違っても、大きな自然を形作っている一部分であるという本質は変わらないという考え方。

エ この世に生きている間の姿は違っても、自然から独立してそれぞれの役割を担っていく性質は変わらないという考え方。

4 □ に当てはまる語句として最も適切なものはどれか。

ア 画然と　イ 泰然と　ウ 騒然と　エ 漫然と

5 (4)「石の文化」「金の文化」 を生み、支えているものが示されている一文を本文中からさがし、最初の十字を抜き出しなさい。

6 本文の特徴を説明したものとして、最も適切なものはどれか。

ア 日本人が持つ畳に布団の生活様式を例に挙げ、世界各国の生活様式と比べながら文化が生まれる過程を説明している。

イ 日本人が持つ習慣の一例から話を進め、異文化の基盤となる考え方と対比させつつ日本の文化の特徴を指摘している。

ウ 日本人が持つ木の文化が安らぎを生むことに注目し、生物材料を用いた持続可能な社会の実現について考察している。

エ 日本人が持つ住居への不満を問題視して、その根本的な解決策を自然の中に求めるという新しい見解を提案している。

4

次の文章を読んで、1から6までの問いに答えなさい。

清(僕)の父親(オトン)は愛媛県大三島でバスの運転手をしている。清が小学六年生の夏、父親は長年運転してきたバスが新型に変わるのを機に仕事を辞め、島を離れて実家の家業を継ぐことを決意した。父親は運転手としての最後の仕事を終えると、清をバスに乗せ、ドライブに出かけた。その途中、父親は清の同級生の岩城を見かけ、バスに乗せた。

正直いうと、僕は、オトンとバスとの思い出の世界に水を [A] 気がして、この無神経な男の登場に小さなため息をついたけれど、もう仕方がないので、岩城とふたりで最後部のベンチシートに腰掛けた。僕は右端に、岩城は左端に座った。この微妙な距離感こそが、(1)僕とこの島との六年間の距離なのかも知れないと思って、少し気が重くなった。

「でも、なんで今日は貸し切りなんじゃ？」

あっけらかんとした岩城の質問に、僕はこれまでの経緯を説明してやった。すると岩城は、ちょっと眉を [B] 不機嫌そうな顔になった。

「ほしたら、清、中学入る前に引っ越すんか。」

だからいま、そういったじゃろ……と思いつつ、僕はただうなずいた。すると、それから岩城はしばらく口を開かなくなった。むすっとした顔のまま、黙って窓の外の風景を眺めている。僕も、放っておいた。

やがて真珠の養殖筏がたくさん浮かぶ浦戸の海を過ぎたあたりで、岩城は窓の外を見たまま小さなダミ声を発した。

「ほんまはの、わしも、よそものじゃけん……。清の転校してくるちょっと前に、この島にきたんじゃけ……。」

僕は岩城の方をあわてて見たけれど、奴は外を見たままだった。でも、宗方漁港を過ぎたところで、再び岩城は口を開いた。今度は、窓の外ではなくて、(2)前を向いて脚を組んで――。

「まあ、あれじゃの。中学行くまではよそもん仲間ちゅうことで、面倒みちゃるけの。四国の中学へ行っても恥かかんように、野球もばしっと仕込んじゃる。」

岩城の照れた顔を見るのは、これで二度目だった。

僕らの間には、なんとなく気恥ずかしいような空気が流れて、ふたりして「へへへ。」と笑ってしまった。本当は、わしもメンコを教えちゃるけ、っていいたかったけれど、それはさすがにやめておいた。でも、こいつと、もうちょっと仲良くなれたら、一緒に遊べるかも知れない。岩城にメンコを教えている自分を想像したら、なんだかおかしくなってきて、僕はニヤニヤしてしまった。

「なんじゃ、清、おまえニヤニヤしよって。気色悪い奴やのう。」

そういう岩城も気持ち悪いくらいニヤニヤしていた。

島の南岸を一周まわって、バスは宮浦の車庫へと戻ってきた。エンジンを切ると、岩城は「じゃあの。」といって、帰っていった。僕は初めて岩城に「また明日の。」という挨拶をした。

いよいよ明日から、新学期がはじまるのだ。

バスのなかは、再びオトンと僕だけになった。僕は運転席に座ったままじっとしているオトンのところへ歩み寄った。

「このバスには、思い出がようけあるのう……。」

両手でハンドルの感触をたしかめながら、オトンがため息のようにいったので、僕は「うん。」とこたえるのが精一杯だった。

そしてオトンは、引かれる後ろ髪を断ち切るように(3)「よしっ。」と短く息を吐いて、立ち上がった。そして「ほいじゃ、バトンタッチ

するかの。」と、つとめて元気な声をだした。
「バトンタッチ？」
「あそこにいる業者さんが、これに乗って広島まで行くんじゃ。」
オトンがププッと短いクラクションを鳴らすと、その業者さんがこちらを振り向いた。オトンが手をあげたら、向こうもそれに応え、こっちに向かって歩いてきた。
（森沢明夫「海を抱いたビー玉～甦ったボンネットバスと少年たちの物語～」から）

1 [A]、[B] に当てはまる語句の組み合わせとして適切なものはどれか。

ア A かけられた B 開いて
イ A あけられた B 上げて
ウ A さされた B ひそめて
エ A 打たれた B 曇らせて

2 (1) 僕とこの島との六年間の距離 が表しているものとして最も適切なものはどれか。

ア 大三島での出来事を、冷静に捉えようと努めてきたということ。
イ 慎重な態度で、大三島の人々と接しようとしてきたということ。
ウ 大三島に感じていた親しみが、次第に薄れていったということ。
エ 人々との関係も含め、大三島になじみきれなかったということ。

3 (2) 前を向いて脚を組んで―― とあるが、このときの岩城の心情を説明したものとして最も適切なものはどれか。

ア 気落ちしている清を元気づけるために、できもしないことを口に出してでも励ましそうとする気持ちと、恥ずかしさ。
イ 清と一緒に過ごせる限られた期間、同じ境遇にある仲間として親しく関わっていこうという気持ちと、きまり悪さ。
ウ これまでの関係を清算し、清が引っ越してから二人の関係を修復していこうという改まった気持ちと、ばつの悪さ。
エ 清を仲間として認めて野球を教えることで、バスに同乗させてもらった感謝を示そうとする気持ちと、照れくささ。

4 清と岩城の関係の変化が、清の行為を通して描かれている一文を二十五字以内で本文中からさがし、最初の五字を抜き出しなさい。

5 (3) 「よしっ。」と短く息を吐いて とあるが、なぜ「オトン」はそうしたのか。二十五字以内で書きなさい。

6 本文の表現上の特徴を説明したものとして、最も適切なものはどれか。

ア 二人の少年の心が通い合っていく様子を、両者の視線の描写を用いて効果的に表現している。
イ 登場人物の関係がにわかに緊迫する様子を、情景描写を挿入しながら象徴的に表現している。
ウ 登場人物の心の葛藤が生じる様子を、対照的な心理描写を織り込んで重層的に表現している。
エ 二人の少年が成長する様子を、日々繰り返される出来事の描写により客観的に表現している。

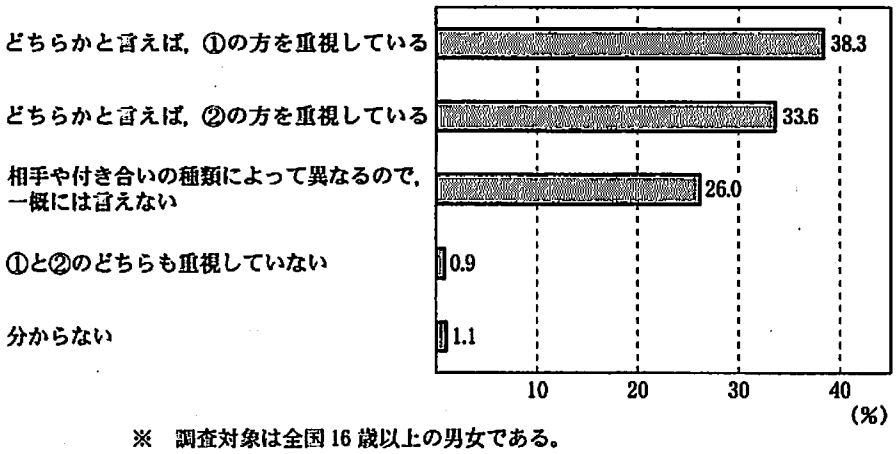
5 次のグラフは、文化庁が行った「平成二十年度　国語に関する世論調査」の結果の一部である。このグラフを参考にして、「言葉と思い」というテーマで、あなたの考えを書きなさい。

なお、自分の考えとその理由を明確にすること。また、国語解答用紙②に、二百四十字以上三百字以内で書くこと。

調査項目

あなたは人と付き合うときに，どちらかと言えば，ここに挙げた①と②のどちらの方を重視していますか。

① 互いの考えていることをできるだけ言葉に表して伝え合うこと
② 考えていることを全部は言わなくても，互いに察し合って心を通わせること



※ 調査対象は全国16歳以上の男女である。

（文化庁「平成20年度　国語に関する世論調査」より作成）